

# 大学入学共通テストに向けて

## ―新傾向の分析と指導法（古文・漢文編）―

代々木ゼミナール講師

志麻田 英義

共通テストの古文・漢文ですが、問われる内容は、センター試験とほぼ同じです。形式の變化は少しありますが、内容は変わりません。つまり、制限時間内に正確に読めれば、高得点を取れます。従来通り、高校での授業で対応できます。特に、高校一年の基礎項目が土台になります。

### 古文編

二〇一七年、二〇一八年に実施された共通テスト試行調査は非常に参考になります。次の三点が主な特色です。

A 本文が難しい

二回とも、『源氏物語』が題材でしたので、出典の難易度が高いです。『源氏物語』が出題されても読解できる実力をつけさせましょう。センター試験の本試験過去問の難易度の高い問題を解かせ、教科書掲載の古文を読ませると良いでしょう。

B 複数の文章の読解

共通テスト模試の受験が最善策です。校内受

験も含め、生徒に模試の受験を促していただきたいです。また、模試は必ず復習して、弱点強化のために活用するように助言しましょう。

C 先生と生徒の対話形式

共通テストの最後の設問で出題される可能性があります。ほとんど内容一致ですので、正確に読めていれば、正答できます。

以上を踏まえて、具体的な対策と方法を述べます。最優先課題はセンター試験の過去問演習です。必ず、本試験から解かせてください。本試験は、追試験より良問です。本試験を解かせるには、次の三つの方法があります。クラスの生徒の学力差や他教科・他科目との兼ね合いにも注意して、ご指導いただくとよいですが、おすすめはBとCです。

A 二〇二〇年から古い問題に遡って解く

B ジャンル別に解く

二〇二〇年本試験の物語系統を、集中して解いてもらう方法です。平安時代の出典に限らず、鎌倉時代の擬古物語も含まれます。同じような話題の本文を読解することで、自然と類出話題も

身につきます。

C 難易度順に解く

易しい問題から難しい問題へと解いてもらう方法です。易しい問題は、二〇一六・二〇一七・二〇一八年あたりです。反対に難しい問題は、二〇一四年の『源氏物語』です。この問題は、センター本試験古文の中でも最も難しい問題と言えます。この問題を初見・20分以内で満点を取れる生徒なら、相当な実力を持っているでしょう。

過去問を解かせた後は、生徒に次の手順で指導をしていただきたいです。

(1) 自分の誤答分析

間違えた設問は、何故、間違えたかを客観的に分析させます。大体、次の三点が失点の原因です。

A 文法・単語の知識の欠如

B 主語・客語の読み取りの間違い

C 設問の読み取り間違い

自分の課題を明確にさせることで、得点力向上の契機になります。

## (2) フィードバック

次に、学校の教科書・副読本に戻り、文法・単語等を復習してもらいましょう。主語判定には、絶対的な公式は存在しません。しかし、敬語が目安になる時もあります。主語判定ができない原因の一つは、そもそも敬語の単語の記憶が曖昧だからです。

### (3) 本文を読む

(1)・(2)をもとに、再度、本文を読んでもらってください。一度解いた問題は、原則、再度解く必要はありません。なぜなら、解いた時点で、本文内容が既知のものになってしまっているからです。本番では、初見の文章への対応力が問われます。但し、本文を読み、復習するのは、文法・単語を本文中で確認でき、読解力も上がるので良いと思います。

### 漢文編

二〇二〇年センター本試験で図が出題されましたが、本文が正確に読めていれば、容易に正解できました。複数の文章の読解は、二回の共通テスト試行調査が活用できます。ここでは、「太公望」や「朝三暮四」「朝令暮改」ではないという知識を持っていると解き易かったです。二〇一八年の試行調査では、文章Ⅰで「現代語訳」が先に提示されていたので、文章Ⅱは、文章Ⅰを参照すれば早く解けたと思います。

また、共通テスト模試を受験させ、形式に慣れさせることも効果があるでしょう。対話形式の問題も同様です。生徒には、本文を正しく読めるように導いていただきたいです。

漢文の対策についても、やはり、センター本試験の過去問を解かせてください。必ず15分以内に解かせましょう。なぜなら、現代文二問に時間をかけるべきだからです。漢文は、二〇二〇年から一九九七年までの本試験が良問です。

古文に比べて、難易度の差は少ないと言えます。二〇一四年本試験が、最も難しいでしょう。この問題を、初見・15分以内に解いて満点ならば、相当の実力の持ち主です。一方、二〇〇六年本試験は、最も易いでしょう。まずは、漢文が本当に苦手な生徒には、この本試験を解いてもらうと良いと思います。

過去問を解かせた後も、古文とほぼ同じです。漢文は、古文に比べて、本文も短く、読み易いです。そのため、復習は最低限でかまいません。本文中の句法や単語を、本文を音読しつつ、意味を取りながら記憶していくのが最重要です。句法の量も少なく、記憶するのにそんなに時間はかかりません。読み方と意味をセットにして、正確に覚えることが大切です。

漢文の学習時間は、多くは確保できません。漢文の文章そのものを読む機会も少ないでしょう。そこで、大学入試問題の過去問の本文を読むことをおすすめいたします。東京大学の漢文

を読むと良いです。内容もまとまっております、面白いからです。読解力を底上げするには、やはり読む量を増やすべきだと思います。設問は、解く必要はありません。センター本試験の過去問を解くのと並行して、東京大学の漢文の本文も読んでいくのが共通テスト漢文対策の要です。

ここまで、過去問の有効性を述べてきましたが、追試験についても、私見を述べたいと思います。追試験を解く必要性は低いです。なぜなら、本試験の方が緻密に作られているからです。追試験は本試験より若干、問題の質が低い時があります。さらに、難易度も高いことが多いです。ただし、本試験を全て解いた生徒に対しては、二〇二〇年から二〇一六年の追試験を解かせるのも良いでしょう。ここでも、他教科・他科目、配点のバランスも考え、生徒に有益な助言を与えてあげていただきたいです。過去問こそが最高の予想問題であるというのは、実際に解いた生徒には理解していただけると確信しております。

共通テスト古文・漢文に関して、具体的な対策方法を述べてきました。但し、学習法には、万人に合う絶対的なものはありません。現場の各先生方の試行錯誤から生まれるものを大事にしてください。本稿が少しでもヒントになれば幸いです。健康に留意し、生徒と共に、共通テストを乗りきってください。